

令和元年度（第2回）山陽小野田市地方創生協議会会議 会議録	
開催日時	令和2年2月18日（火）9時30分～11時40分
開催場所	山陽小野田市立中央図書館2階第2会議室
出席委員	山陽小野田市地方創生協議会委員 9人 （江田座長、原副座長、半矢委員、谷口委員、森田委員、野村委員、玉木委員、小原委員、竹本委員）
出席職員	（事務局） 企画部長、企画政策課長、企画政策課主幹、企画政策課政策調整係長、企画政策課主任主事
協議概要	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）目標指標及びKPIの追加報告について</p> <p>【事務局が次第において説明】</p> <p>○質疑応答</p> <p>【玉木委員】</p> <p>高校生アンケートの母数は何人か。</p> <p>【事務局】</p> <p>472人分を用意し、市内の高校である小野田工業高校、小野田高校、サビエル高校、厚狭高校にお願いし、458人分の回答を頂いている。</p> <p>【玉木委員】</p> <p>市内に住みたいと思う進学予定者と就職予定者で、市内に住みたいと思う割合の差は何か。</p> <p>【事務局】</p> <p>就職予定者は、就職するということが居住地を決めることに直結するためイメージが付きやすい。また、どこに住むのでどの企業に就職すると考えるが、進学予定の生徒は、都会に出たいという考えが多く、その先の都会で就職希望の生徒もいれば、地元に戻って就職したい生徒もいる。進学予定の生徒は、居住地を決めることが先過ぎてイメージがつかないため、差が出ていると考える。</p> <p>【玉木委員】</p>

進学希望先が市内というアンケートの取り方ではないのか。

【事務局】

進学した学校を卒業後に山陽小野田市へ住みたいかどうかを尋ねている。

【野村委員】

若い世代の人だと人手不足が要因で県外志望が強い傾向があるため、マイナスの数値に見えるが、環境の影響もあるため、それも含めた評価をする必要がある。

【小原委員】

アンケートの男女比はどのくらいか。女性の就職先は市内に多くあるのか。

【事務局】

アンケートの集計データに男女比はあるが、分析はしていない。工場が採用するのは男性が多いと思われるが、確認していないので、確認し今後の施策に反映していく。

(2) 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）
（資料1）について

【事務局が次第「ア 変更にあたっての考え方」及び「イ 現戦略からの変更箇所」について説明後、資料1について説明】

○質疑応答

【玉木委員】

KPIの現状値が、平成26年となっているが、平成30年はどうなっているか。

【事務局】

前回の8月の協議会で実績は示している。総合戦略の中には載せていない。

【玉木委員】

総合戦略に記載することで、進捗がより分かりやすくなるのではないか。

【事務局】

検証する上では、平成30年の数値を示した方が良かったと考える。総合戦略に記載するとなると、文字を小さくする必要があるので、記載していない。

【玉木委員】

P 8の観光客数のK P Iの数値はどうなっているか。

【事務局】

平成30年が1,072,500人、平成29年が1,061,000人、平成28年が980,000人となっている。

【森田委員】

P 28山口ゆめ回廊博覧会と市の関係はどうなっているか。

【事務局】

山口ゆめ回廊博覧会は7市町の山口県央連携都市圏域による取組の1つであり、7市町がそれぞれのテーマに沿ってイベントを行う。本市では、ガラス文化をテーマとして実施する。

【森田委員】

P 43スマイルエイジングの取組に具体的K P Iを設定しないのか。一人当たりの塩分取得量や平均寿命などを設定してはどうか。

【半矢委員】

K P Iがあると、市民が分かりやすいのではないか。また、P 31放課後児童クラブは、今後共働きが増えると考えられるが、対策をしているのか。

【事務局】

例えば、令和2年度の児童クラブ利用者については、出合小学校では希望者が増加したため、新たに広い空き教室を整備し対応する。また、高千帆小学校は児童数が増加していくことから、校舎と合築で児童クラブを新設する。年度や、1年のうちでも時期によって、利用希望者が変動するが、その都度対応できるよう取り組んでいる。

【半矢委員】

高校を卒業後に女性の働く場とは、具体的にどのような場所があるのか。

【事務局】

把握していない。今後商工労働課や、学校に確認する。

【小原委員】

P 45の空き家の適正管理の啓発は誰を対象としているか。

【事務局】

市民が対象である。空き家相談等を山口県及び市で行っている。また、広報等でも周知している。危険空き家にならないための啓発になる。

【小原委員】

宅建協会等に相談に来る人が所有する空き家は、市外にある。そのため、市の空き家対策とは合致していない。

【事務局】

市の事業としては、これから危険な空き家を増やさないために市民に対して啓発を行っている。

【原委員】

空き家対策は、各々でやっている状態に取りまとめをする部署がない。その他の市の相談窓口も多岐に渡っており、一体的に取り組む部署が必要ではないか。

【事務局】

市民相談、自治会の相談は市民生活課が対応しているが、内容によっては他部署でないと対応できないこともある。今後、協創のまちづくりの考えから市民の方と一緒にやっていく体制を進めていく。

【原委員】

2次産業が企業誘致等に多いが、働き手の募集をかけても応募のない3次産業について、対策がない。

また、広域の話に下関市が全く出てこない。埴生地域の方は下関市の病院に行っていることが多いが、救急車は小野田から来るため時間を要し困っている。

総合戦略に厚狭駅の活用計画が出てこないが、認知は十分されていると考える。今後の活用の方向性を考える必要がある。

農業は厚狭北部に優良農地があるが、後継者不足により耕作地が減っている。地域おこし協力隊を更に活用していく必要を感じている。

【江田委員】

空き家を使いたくて相談があっても、市に空き家バンクがないため紹介ができない状態である。今後の取組をどのように考えているか。

【事務局】

山陽小野田市には特性があり、通常の空き家は流通にのっているものが多い。危険な空き家は、空き家バンクを作ってもどちらにもならないため、空き家バンクを実施していない。

【江田委員】

宇部市が住みたい田舎1位となったが、空き家対策の参考に

なるのではないか。

【事務局】

宇部市の空き家バンクも、中山間地域に特化して実施されている。街中にあるものは紹介されていない。

(3) 山陽小野田市人口ビジョン（改訂版）（資料2）について（説明）

【事務局が「ア 変更の考え方」及び「イ 変更箇所」について説明後、資料2について説明】

○質疑応答

【小原委員】

婚活事業を広域で行った場合、人口流出につながるのではないか。

【事務局】

流出につながることもあれば、流入につながることもあると考えている。山陽小野田市のみで実施したが、市への定住、人口増の効果を測ることができなかった。広域で行うことで、広域として効果ができれば成功と考える。

【小原委員】

広域で実施する場合、実施主体は行政か。

【事務局】

民間委託になると考えている。趣味で参加者を限定した取組として、中央図書館で本好きの方を集めたイベントは、カップルの成立が高いと聞いている。そのような取組を含めて広域での実施を検討していく。

【小原委員】

山陽小野田市で婚活事業をすることが、市のPRになると思う。

定住の関係については、家族が子どもである学生の交通の利便性を考えて、定住する場所を宇部市にする人が多い。山陽小野田市に住んでいても、バス等の公共交通を利用し、他市へ通学できるよう交通環境を向上させる必要があるのではないか。

【事務局】

商工労働課の交通担当に伝える。

【江田委員】

理科大の学生はバスが無料になると報道されていた。利用者が増えるのではないか。

【森田委員】

令和2年の4月から、3市にまたがり船鉄バスが無料となる。バス利用者が増えれば、交通環境も変わっていくと考え、期待している。

【江田委員】

大学生が交通網を検討していると聞いているが、大学生の利便性が向上するように交通網を検討する必要があるのではないか。

【森田委員】

学生が動けば、街の活性化につながっていく。現在、厚狭地区に学生が行きにくいのが、無料バスにより行動範囲も広がっていく。

【野村委員】

期間合計特殊出生率が向上していないのが、問題である。また、社会動態を均衡させることも目標としているが、P4、5の社会動態を見たとき、平成27年の転出が減っている。社会動態がプラスになっている理由は、マンション建設による転入者の増加と説明があったが、市内に居住環境があれば転出者が減り、残る人も増えるのではないかという分析が必要である。

【事務局】

データを確認し、今後の参考にする。

【原委員】

就職では、3次産業は県外に出ている。市内の若者に魅力のある施設がないから出ていくのではないか。サンパークだけでなく、市内に魅力あるものが必要である。

3次産業で就職の場をつくれれば、市内に残る人が増えるのではないか。大学卒業生で、2次産業で市内に残る率は低いと考える。

(4) 地方創生推進交付金事業の検証について（説明と意見交換）

- ・地方創生推進交付金事業「スマイルシティ山陽小野田 活力と笑顔あふれるまちづくりプロジェクト」の進捗及び重要業績評価指標（KPI）の達成度の状況について（資料

3)

【事務局が資料3について説明】

○質疑応答

【野村委員】

かるたと焼野海岸の連携はあるのか。

【事務局】

PRは一緒にやっていくが、取組としては、別と捉えている。

【野村委員】

できるだけ連携して実施した方がいいのではないか。

【原委員】

文化会館に魅力ある催しが減ってきていると感じる。厚狭駅、山陽総合事務所、文化会館が連携して盛り上げて欲しい。

【事務局】

令和2年度に、かるたの大会や講演会を文化会館で実施する予定である。

(5) 企業版ふるさと納税の取組について（説明と意見交換）

・平成30年度企業版ふるさと納税の取組について（資料4）

【事務局が資料4について説明】

○質疑応答

【江田委員】

平成30年度の1社とはどこか。

【事務局】

非公表を希望されているため、回答することができない。

【小原委員】

スマイルキッズの駐車場は足りているのか。

【事務局】

舗装された駐車場とは別に、舗装されていない駐車場が横にあり、こちらも利用できるため、足りている。

3 その他

4 閉会

--	--